

開倫塾ニュース6月号送付の御案内

定期試験では100点を目指そう

— 「理解」した内容の「定着」(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)で全科目100点を—

開倫塾塾長 林 明夫

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

お読みになりやすいように、QandAの形で書かせて頂きます。予め御了承下さい。

Q：はじめに、一言どうぞ。

A：(林明夫：以下省略)開倫塾の創業者で、開倫塾全体の責任者を努めさせて頂いている塾長の林明夫です。今月も開倫塾ニュースをお読み頂き有難うございます。

この「開倫塾塾長通信」は、「開倫塾ニュース送付の御案内」も兼ねて、塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、教職員の皆様にじっくりお考え頂いたり、お取り組み頂きたいことを、僭越ではございますがQandAの形で毎月書かせて頂いているものであります。

Q：学校の定期テスト(中間テストや期末テスト、前期テストなど)で100点満点を取るには、どうしたらよいのですか。

A：ポイントが3つあります。

- (1)第1のポイントは、今回の中間テスト・前期テストで、この科目とこの科目は100点満点を取ってしまうぞと、1日でも早く「決意」することが最も大切です。
- (2)100点満点は誰でも必ず取れますが、100点満点を取ってしまうぞと自ら考え、自分の意志で「決意」しなければ、取れるものではありません。
- (3)「意志あるところに道は開ける(Where there is a will, there is a way.)」です。100点満点を取ろうという「高い志(こころざし)」を持つことは、学校で勉強する人として非常に立派なことです。尊いことです。

Q：何だか照れくさいですね。100点を取ってやるぞと決意するなんて、よい子ぶった点取り虫みたいで、あまりかっこよくないのではないですか。よい子ぶって、皆からいじめられても困るし…。

A：よく考えて下さい。どのような人にも、本分(ほんぶん)、つまりその人が守り行わなければならない本来の立場があると私は考えます。社会に出れば、社会人の本分つまり立場があり、社会人にふさわしい行動が求められます。

小学校や中学校、高等学校、大学などの学校という教育機関で勉強する児童・生徒・学生の皆

様は、各々の本分を全うしなければなりません。「大学生の本分を全うするとは何か」、「高校生の本分を全うするとは何か」、「中学生の本分を全うするとは何か」、「小学生の本分を全うするとは何か」。少し難しいことかもしれませんが、自分の置かれている立場や分限を、自分のこととして自分の頭で真剣に考え、自分の考えをお持ちになることが大切です。

国民の尊い税金、寄付して下さった方の財産やお金、また、保護者の皆様により支払われる納金などで運営される学校という教育機関で学ばれる皆様の本分は、勉強することだと私は確信いたします。

勉強することが、学生や生徒、児童の本分で、それ以外はないとすら考えます。勿論「勉強」には、教科の勉強の他に、学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動、学級会活動、班活動、部活動、クラブ活動、社会体験活動、ボランティア活動、運動会、文化祭など、学校で先生方の指導により行われるすべての活動が入ります。

教科のみならずそれ以外の学校での活動は、その1つ1つが、皆様の人生の成功と持続可能な社会をつくるという極めて尊い教育上の意味を持つものです。

日本の教科教育は世界から非常に高く評価されていますが、教科以外のさまざまな活動も非常によく考え抜かれたものであると最も高く評価されています。「掃除(そうじ)当番」は、人間の生活の上で最も大切な教育であると、世界の教育者から極めて高く評価されています。(私は、2006年にフィンランドのタンペレ市で開かれた世界カリキュラム研究会議に参加しましたが、その際に、多くの教育学の専門家の先生から、日本のカリキュラム、つまり教育課程や全般的教育活動の中で最も優れているのは、掃除当番や学校行事・クラブ活動・修学旅行などを通じて行われている躰(しつけ)などの隠れたカリキュラムであるとお言葉を頂きました。)

教科以外の学校でのあらゆる活動は、すべて「勉強」でありますので、学生・生徒・児童の本分として「勉強」を全うして頂きたいと思えます。

ただし、教科の勉強は、学校で学ぶ立場にある人は最も真剣に取り組まなければ、その本分を全うしたことにならないと私は考えます。

教科の勉強に励み、高い志(こころざし)を持って定期テストで100点満点を目指すことは、最も高く評価されることです。最も尊敬されるべきことです。100点を目指すことを照れくさがることはありません。高い志を持つ人を「よい子ぶっているからいじめてやろう」などといじめの対象にすることは、最も軽蔑すべき行動です。「我(われ)関せず」と、何を言われても全く気にせず、相手にしないに限ります。

「朱(しゅ)に交われば赤くなる」です。人間として悪い行いをする仲間に入ると、自分が悪い行いをしていることがわからなくなります。ですから、悪い行いをする人は相手にしないことです。もし、暴力をふるわれたり、お金を要求されたら、それは「犯罪行為」ですから、躊躇しないで担任や校長、警察に訴えることです。犯罪の被害者になることはありません。

周りが何と言おうと、どうか自信を持って「学校の定期テストで100点を取ってやるぞ」と決意をなさって下さい。この「100点満点を取ってやるぞ」という決意が自らの力でなされれば、そのあとは、次の2つのポイントを確実に行うだけで、誰でも100点満点が取れます。

Q：随分長いお話でしたね。びっくりしました。「100点を取るぞ」と決意することの大切さはわかりました。ところで、第2のポイントは何ですか。

A：各科目のテスト範囲を予測することと、何で勉強するかを決めることです。これが第2のポイントです。

Q：どのようにして、テスト範囲を予測したらよいのですか。

A：「テスト範囲表」の発表は、学校により先生によりまちまちですので、「テスト範囲表」が配られるのを待っていたのでは、テスト期間までに勉強が終わらない場合も出てきます。

そこで、定期テストが行われるという期日だけはわかっているでしょうから、テストの前週の終わりまでには、この科目は大体ここまでは終わるかもしれないと予測を立てることが大事です。

テスト範囲のスタートを予測することも大事です。今春入学した1年生は、教科書の1ページ目からの内容から出題されることが普通です。それ以外の学年、つまり高校2・3年生、中学校2・3年生、小学校2・3・4・5・6年生は、前学年の学年末テスト範囲の次のところからが出題範囲になることが多いですから、ご注意ください。

各科目ごとに「出題範囲予測表」を自分で作成すること、つまり、この科目は〇年生の教科書の〇ページから〇年生の教科書の〇ページくらいまでというように、どの範囲から出題されるかを自分でよく考えて、一覧表を作成することです。それをノートにメモし、また、机の前によく見えるように掲示しておくことです。

どの範囲から出題されるかがはっきりしなくては、テスト対策の勉強、テストに備えての準備はできません。おわかりですか。

Q：定期テストの日までにはあと〇回くらい授業があるから、〇〇あたりまで進むかもしれない。だから、そのちょっと前までがテスト範囲になるかもしれない。テスト範囲はそのように予測する。このようなことは考えたことがありませんでした。

A：皆様は考えたことがなかったかもしれませんが、100点を実際に取っている人は、自分でも気付かずにやっているようですよ。

Q：第2のポイントのもう1つ大事なことは何ですか。

A：テストの出題範囲の初めのところと終わりのところが予測できたら、次に大切なのは何で勉強するのかをはっきり決めることです。

教材は、次の4つのグループが考えられます。

〈第1グループ〉

- |   |
|---|
| (1)学校の教科書<br>(2)学校の授業中に取ったノート<br>(3)学校から配られた問題集、資料集 |
|---|

〈第2グループ〉

- (1)開倫塾のテキスト
- (2)開倫塾の授業中に取ったノート
- (3)開倫塾から配られた問題集、プリント

〈第3グループ〉

- (1)通信添削のテキスト
- (2)通信添削のテスト
- (3)通信添削のテストの解説書

〈第4グループ〉

- (1)書店などで買った各科目の参考書
- (2)書店などで買った各科目の問題集
- (3)「辞書」、「事典」

- ・〈第1グループ〉の「学校の教科書」「学校の授業中に取ったノート」「学校から配られた問題集、資料集」は最も大事です。この〈第1グループ〉の教材をすべて終わらせることを、まずは目指しましょう。
  - ・〈第2グループ〉の「開倫塾のテキスト」「開倫塾の授業中に取ったノート」「開倫塾から配られた問題集、プリント」は、開倫塾にいる間に勉強してしまうように心掛けましょう。繰り返しになりますが、最も大事なものは〈第1グループ〉です。
  - ・〈第3グループ〉の「通信添削のテキスト」「通信添削のテスト」「通信添削のテストの解説書」は、「添削」に取り組んでいるときに集中してやってみましょう。
  - ・〈第4グループ〉の市販の「参考書」「問題集」「辞書」「事典」は、必要なときにポイントを絞って活用しましょう。
- \*おわかりですか。定期テストで100点を取る上で大事なものは、第1グループの「学校の教科書とノート、問題集、資料集」です。それを補うのが、第2～第4グループの教材です。テスト範囲を予測し、第1グループの教材だけを十分に「理解」した上でスミからスミまで完全に暗記すれば、誰でも100点は取れます。

これが第2のポイントです。

Q：テスト範囲を予測した上で教材を決めるという、100点を取るための第2のポイントはわかりました。第3のポイントは何か。十分に「理解」した上でスミからスミまで完全に「暗記」することですか。

A：その通りです。「中間テスト」や「期末テスト」、「前期テスト」、「後期テスト」など「学校の定期テスト」で100点を取るには、「テスト範囲」を予測して教材を決めたら、その内容を「う

ん、なるほど」と十分に「理解」した上で、そこに書いてあることをスミからスミまで完全に「暗記」することです。

Q：「暗記」とは、何ですか。

A：3つあります。

- (1)「うん、なるほど」と十分に「理解」したことを、何も見ないでスラスラ正確に言えること。
- (2)「うん、なるほど」と十分に「理解」したことを、何も見ないで正確に書けること。
- (3)「うん、なるほど」とその解き方や考え方を十分に「理解」した計算問題や練習問題は、問題を見た瞬間に条件反射でパッパッと正解できること。

\*この3つを、「暗記」と言います。「学校の教科書に書いてあることのすべて」、「学校の授業中にとったノートのすべて」、「学校から配られた問題集や資料集のすべて」を、自分で予測した「テスト範囲」に基づいて「スミからスミまで」上記の(1)～(3)の形ですべて「暗記」すること。これが、100点を取るポイントの第3です。

Q：(1)～(3)のすべてに、「うん、なるほど」と十分に「理解」した上でと書いてありましたね。

A：はい。「うん、なるほど」と十分に「理解」していないもの、よくわかっていないもの、納得しないものを暗記しても、テストのときによい点が取れるかどうか、世の中に出て役に立つかどうか心配です。

「うん、なるほど」と十分に納得してから、「暗記」して下さいね。

よくわからなければ、「教科書」や「ノート」、「問題集」、「資料集」をゆっくりと腰を落ち着けてもう一度読み直して下さい。ことばや語句が難しければ、辞書や事典、参考書を使ってまずは自分で調べて下さいね。問題の解き方がどうしてもわからなければ、開倫塾のテキストや教材、通信添削をやっている人はそのテキストにある似たような問題の解説をよく読み直したり、ノートに写してみることで。それでもわからなければ、学校の先生や開倫塾の先生に遠慮なく質問して下さい。わからないままにしないこと、「理解」できないままにしないことが大切です。

「うん、なるほど」と十分に「理解」した上で、(1)何も見ないでスラスラ正確に言えるまでにする。こと。(2)何も見ないで正確に書けるまでにする。こと。(3)計算問題や練習問題は、見た瞬間に条件反射で正解が出せるまでにする。こと。

Q：どうしたらそのようなことができるのですか。とても大変なように思えますが…。やり方を教えてください。

A：あまり深く考えることはありません。一度「うん、なるほど」と十分に「理解」しているものですから、「練習、練習、また練習」で誰にでもできます。

Q：どのような「練習、練習、また練習」をすればよいのですか。

A：(1)「音読練習」(2)「書き取り練習」(3)「計算・問題練習」です。

(1)「教科書」や「ノート」、「問題集」、「資料集」を何も見ずに正確に言えるようになるまで、

大きな声を出して何十回も何百回も音読すること。

(2)「教科書」や「ノート」、「問題集」、「資料集」の中の大事なところを、正確に書けるようになるまで、何十回も書き取り練習すること。

(3)「教科書」や「ノート」、「問題集」、「資料集」の「計算問題や練習問題」を、問題を見た瞬間に正解がパッと出せるまで、何回も何十回も解き続けること。

\*繰り返し繰り返し(1)~(3)の練習をすることが最も有効です。役に立ちます。このように、一度「うん、なるほど」と十分に「理解」したことを「練習、練習、また練習」を繰り返して暗記すると、それは知識として「定着」し、一生涯(いっしょうがい)忘れることはありません。

1科目でもよいですから、このような方法で勉強し、100点満点を取って下さいね。

**Q：100点満点を取ると、何かよいことがありますか。**

A：たくさんありますよ。

(1)定期テストで100点を取ると、学校での評価が高まり、「通知票」の評価が最高となります。

(2)入学試験や就職試験(採用試験)のときの学校からの内申書が最高の評価となります。場合によっては、推薦入学の対象となり、教科の入学試験を受験しなくても合格することもできます。(最近では、医学部ですら推薦入学があります)

(3)学校の成績がよいと、奨学金を借りることができ、返却なしでもらえるようになります。

(4)何よりも、その科目が得意科目となり、自信を持って人生を歩むことができます。

(5)100点が取れるような得意科目ほど、もっと勉強したくなります。もっともっと勉強がしたくなりますし、また、基礎ができていますので、高度なレベルの高い勉強に進むこともできます。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1)「部活動」や「習い事」、「ボランティア活動」、「生徒会活動」など教科以外の活動をしている人は、「どのように教科の勉強と両立させるか」で悩む場合も多いと思います。難しいかもしれませんが、ものごとをやる手順・プロセスを事前に十分に考えてものごとを行うことです。ダラダラものごとをしない。やる時にはやる。集中してものごとを行う。これが大切かと思います。

(2)1日でも早く定期テストの勉強をスタートすることをお忘れなく。いくら素晴らしいやり方に気付いても、時間が不足していると勉強が終了しません。定期テストの3週間前からスタートすることをお勧めします。

\*この定期テストの勉強方法は、社会に出てからのすべての勉強、ありとあらゆる試験にも役立ちます。開倫塾の塾生である間に、身に付けてしまいましょう。

頑張ってくださいね。

— 2008年4月24日記 —